

JIS Z 2911 改正のご案内

2023年11月20日にJIS Z 2911 かび抵抗性試験方法が改正されました。今回の主な改正は付属書 A になります。

主な改正箇所

- ・方法 B 削除
- ・培養温度「 $24^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ または $29^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ 」⇒「 $29^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ 」
- ・試験片の大きさ「一辺が 30~60mm の正方形」⇒「 $(50\text{mm} \pm 1\text{mm}) \times (50\text{mm} \pm 1\text{mm})$ の正方形」
- ・培地の変更
- ・実体顕微鏡による評価の細分化
- ・試験片の端から 5mm 以内に発育しているかびは無視する

プラスチック製品の試験

JIS Z 2911 付属書 A プラスチック製品の試験の操作の概要

試験方法	寒天培地の種類	孢子懸濁液の種類
方法 A	培地なし	湿潤剤添加無機塩溶液
方法 B	グルコース添加無機塩寒天培地	グルコース添加無機塩溶液

・方法 A

試料以外の有機物がない状態で、かび孢子混濁液を接種した時のかび抵抗性を評価する試験方法です。試料自体に栄養分がない場合、かびは菌糸を発育することができません。

・方法 B

試料以外の有機物がある状態で、かび孢子混濁液を接種した時のかび抵抗性を評価する試験方法です。

試料自体に栄養分がない場合でも、かびは菌糸を発育することができます。

なお、試料中のバイオサイド(加工剤)自身の実質的な性能を判断するためには、バイオサイドを含まない試料と同時に試験を実施する必要があります。



試験に使用するかび

【試験結果の見方】

下表に従い、培養後試験片のかびの発育状態を評価します。

かび抵抗性	かび発育状況
0	肉眼及び実体顕微鏡下でかびの発育は認められない。
1a	肉眼ではかびの発育が認められないが、実態顕微鏡下では明らかに認められる。 発育部分の面積は試料の全面積の 25%以下
1b	肉眼ではかびの発育が認められないが、実態顕微鏡下では明らかに認められる。 発育部分の面積は試料の全面積の 50%以下
1c	肉眼ではかびの発育が認められないが、実態顕微鏡下では明らかに認められる。 発育部分の面積は試料の全面積の 50%を超える
2	肉眼ではかびの発育が認められ、発育部分の面積は試料の全面積の 25%未満
3	肉眼ではかびの発育が認められ、発育部分の面積は試料の全面積の 25%以上 50%未満
4	菌糸はよく発育し、発育部分の面積は試料の全面積の 50%以上
5	菌糸の発育は激しく、試料全体を覆っている。

お問い合わせ

大阪事業所 生物ラボ TEL：06-6441-6756